

# 有孔石斧について

(枝幸町岡島川尻遺跡 (現・ホロベツ右岸段丘遺跡) 出土の有孔石斧からの考察)

立田 理<sup>1</sup>

1. 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

**要旨** 北海道の有孔石斧は、縄文時代早期中葉貝殻文土器に伴い、現在 40 例ほどが知られている。枝幸町川尻遺跡では 4 点の出土があり、一遺跡で出土するものとして道内 2 番目に多い。出土例を集成して検討し、携帯用道具としての役割を想定する。

**キーワード**：有孔石斧，新岡コレクション

## はじめに

現在、オホーツクミュージアムえさしには有孔石斧、貫通孔のある石斧が 5 点所蔵されている。このうち 4 点は新岡武彦氏のコレクションで、町内岡島にある川尻遺跡の調査により出土したものである。同一トレンチからは東釧路 I～IV 式土器、石刃鏃 10 点、石錘 120 点も出土している (札学大考古学研究室 1964)。他は、歌登町教育委員会が所蔵していた出土地不明の 1 点である。高島館長のご厚意によりこれら 5 点について実見の機会をいただいた。

有孔石斧の類例は近年増えつつあるが、一遺跡から 4 点以上出土するのは本例以外に浦幌町平和遺跡しかない。川尻遺跡の出土資料の意義を再確認し、類例を集成してその文化的機能的意味を考察するのが本論の目的である。

## 枝幸町の有孔石斧

図 1 は 5 点の実測図である。1 は歌登町の資料で、全面が研磨され撥形を呈する。刃部は偏刃。両刃に近い形状に仕上げられる。基部右辺の擦切痕跡に微小な穿孔、その上位には穿孔の痕跡

が認められる。2～5 は川尻遺跡出土。2 はうち最大。成形時の粗い擦痕が残り、左側縁に擦切技法による溝が認められる。短冊状だが軸はゆがみ、裏面は凹凸があり基部は作出されない。未製品とみられる。穿孔は表裏面からなされ、線条痕を明瞭に残す。色調は全体が黒く、中央はやや赤味がある。3～5 は基部側 2 分の 1 程度の破片。色調は赤い。3、4 は破断面に擦痕があり、破損後に再加工されたとみられる。ともに中心付近の赤味が強い。4 は孔の上位に穿孔痕跡が認められる。5 は側縁が黒色で、表面の赤との境界が明瞭である。穿孔は基部左に寄る。なお、2～5 の石材は報告には「赤色泥質チャート」とあり、赤色は石材の色調と判断されている。筆者は他遺跡の類例から、同様な赤色が加工時についた可能性を指摘している (立田 2003)。

## 縄文早期北海道の有孔石斧

道内の有孔石斧は、皆川洋一氏により集成されている。早期の石器組成変化を述べる中でこの有孔石斧に触れ、主な所属土器型式をアルトリ・ムシリ I 式から東釧路 II 式 (Ⅲ期・後述) とする。

また地域的な差異があり、道東の出土例には垂飾状の製品が伴うことと、擦切で作成した溝中に穿孔する技法が、道東北にしか認められないと指摘している。さらに伴う遺物として、石刃鏃との関係の深さを強調する(皆川 2001)。

現在、有孔石斧はその後出土したものや本例も含め 40 例ほどある。数量は増加したが、指摘されている事実にほぼ変化はない。ただ、道東北の特徴とされた溝中の穿孔は函館市梁川町遺跡にも認められることから、全道的な傾向となっている。

有孔石斧はその多くがいわゆる蛇紋岩<sup>注1</sup>製である。道内での早期蛇紋岩製石斧の数量的な変遷について、富永勝也氏による時期区分に従い簡単にみしてみる(富永 2008)。

#### (I期：8500～810014C BP)

地域差がある。道南の貝殻文尖底土器中野A式ではほとんどが蛇紋岩製で占められるが、日高・道東におけるテンネル・暁式に伴う量は比較的少数である。このことは函館市中野A・帯広市八千代A・門別町ピタルパ遺跡で認められる。

#### (II～III期：8100～7100 14C BP)

全道に広がる。アルトリ・浦幌式では、道東地域にやや少ないもののほぼ全道で伴うようになる。芦別市滝里4・浦幌町平和・恵庭市西島松5遺跡等で認められる。

#### (IV期：7100～6000 14C BP)

減少する。縄文平底土器期(東釧路Ⅲ・中茶路・コッタロ・東釧路Ⅳ式)になると、遺跡により差があるが数が減り、小型のものが多くなる。函館市豊原4遺跡、帯広市大正3遺跡等、副葬品の石斧は蛇紋岩製が多い。

II期以降に全道的に広がり、数量が増加する蛇紋岩石斧は、山原敏郎氏が指摘する樽前dテフラ降下(I期後半)を契機とする石器文化の接触(山原 2005)とかかわる可能性があり興味深い。

### 有孔石斧の諸特徴

有孔石斧は蛇紋岩石斧とともに消長する(表

注1 浦幌町平和遺跡の流紋岩、川尻遺跡出土例は、実見では「蛇紋岩」に見える。実際にはロジン岩、透閃石岩等の石材であるが、本論では従来の蛇紋岩を用いた。

1)。図2、3は集成した有孔石斧から30点を選び、大きさ順に並べたものである。青森県田代納屋遺跡出土例(13)の他は、全て道内出土である。図1～3を基に検討していく。

#### ・大きさと形態について

蛇紋岩製石斧の大きさは、概ね大型(長さ14cm以上)中型(14～10cm)、小型(10cm以下)のサイズに区分できる。有孔石斧は中型以下、もしくは破片に穿孔されるものとなる。

形態には多様性がある。刃部は概ね片刃で、緩やかな弧を描くものが多いが、明らかに偏刃を呈するものもある(1、9)。基部は刃部より細くなる。基端の形状は台形に近い(4、10、15、16)、舌状に張り出す(3、6、18)、切り出し状に尖る(31、32)等様々である。

#### ・穿孔部位について

穿孔方向は基部断面形の短軸であるが、詳細な位置は一定ではない。器軸に位置するものもある(4、6、18、21、35)ものの、むしろ器軸を避けて穿孔されるものが多数である。擦切溝に穿孔する例は、あらかじめ擦切溝を施して穿孔するほうが、穿孔途中の破壊を防ぐことができたからではないだろうか。

穿孔部に紐ずれのような痕跡がつくものもある。中野B遺跡は2点(18、19)とも、孔の基部側に擦痕がある。実見したが加工に伴う擦痕というよりは、なめらかで紐ずれを思わせる。羅白町トビニウス川南岸遺跡(30)にも同様の跡があるとされている。

#### ・加工について

擦切の痕跡は多く、21例確認できる。川尻遺跡の2例に認められる、破断面を加工した再加工の痕跡(4、5)は、苫小牧市静川14遺跡(15)でも指摘されている。また、穿孔のやり直し(1、4、8、10、30、35)や、穿孔失敗(22)、穿孔途中とみられるもの(28)がある。

### 考察

特徴から有孔石斧の機能について考えてみる。

基部形態の多様性は孔のない石斧も同様で、蛇紋岩石斧の特徴である。有孔石斧の特徴のうち、

大型石斧が存在しないこと、川尻遺跡例を代表とする破損後の再加工痕跡や、穿孔に途中や失敗があること、また擦切溝が側縁ではなく表裏面にあったりする（7、9）ことを考え合わせると、有孔石斧は石斧破片を再加工して作られたものである可能性が出てくる。皆川氏も破損品が多いことを注視しているが、有孔石斧自体が破片から作られた結果とも考えられるのではないか。

穿孔の役割はどうだろう。孔の位置が一定でないことから、柄等に固定するためのものとは想定しがたい。また、紐ずれが孔の上位にあるのは、吊るされたことを示す。装身具とも解釈できるが、概ね日常道具の形とかけ離れていないことから、つまみ付きナイフのように携帯された道具の可能性を指摘したい。川尻遺跡の報告では腰に括り付けて吊るしたと想定している。

時代背景を含め考えてみる。山原敏郎氏は、暁式（Ⅰ期）の竪穴住居の形態とその分布状況等から、早期縄文人が季節的に回帰移動した可能性を指摘している（山原前出）。小杉康氏はこうした傾向を貝殻文期（Ⅱ～Ⅲ期）に敷衍し、集落の「回帰的反復利用」と表現した（小杉 2009）。

移動する人間にとって石材を備蓄することは難しい。移動に伴い壊れていく石斧を大切に作り直し、道具として、あるいは再加工のための素材として持ち歩いた。この有孔石斧はそんな存在だったのではないだろうか。

## おわりに（追記）

歌登町の資料（1）を筆頭に、蛇紋岩とは異なる、主として堆積岩の有孔石斧（6、21）は考察結果からやや外れる。これらについては今後検討して行きたい。

## 謝辞

執筆の機会を頂いた高島館長に御礼申し上げます。皆川洋一氏、富永勝也氏にご助言を頂きました。記して感謝いたします。

## 引用文献

- 札幌大考古学研究室・ウタリ・北海道学芸大学考古学研究会、1964、(北海道学芸大学考古学研究会連絡誌、第6巻3号)。
- 立田理．“黒または赤色を呈する石斧について”．恵庭市柏木川13遺跡．2003、(財)北海道埋蔵文化財センター203集)。
- 皆川洋一．“北海道中央部・南部における縄文時代早期後半の諸問題”．渡島半島の考古学．南北北海道考古学情報交換会、2001。
- 富永勝也．“縄文時代早期の北海道”．縄文化の構造変動．六一書房、2008。
- 山原敏郎．“テンネル・暁式土器群を有する石器文化の成立と展開をめぐる一理解”．考古論集—川越哲志先生退官記念論文集．2005
- 小杉康．“北海道の縄文集落と地域社会”．集落の変遷と地域性．鈴木克彦、鈴木保彦編．雄山閣、2009、(シリーズ縄文集落の多様性、Ⅰ)。

表1 有孔石斧一覽 (計測値の7ミは、実測図から計測したもの)

番号	市町村	遺跡名	報告書中の石材	点数	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	I ~ IV (富永2008)	想定される土器型式・石刃鏃	報告機関・書名等	報告年
1	歌登町	不明	緑色片岩	1	11.4	5.0	2.3	206.8	中型	完形 擦切孔	—	不明	—	本報告
2	枝幸町	川尻	赤色泥質チャート	1	(12.3)	(5.0)	(2.7)	228.4	中型	未製品? 擦切痕	III ~ IV	東銅路 I ~ IV・石刃鏃	ウタリ 6-3	1964
3	枝幸町	川尻	赤色泥質チャート	1	(7.2)	(3.9)	1.4	55.0	破片	赤色	III ~ IV	東銅路 I ~ IV・石刃鏃	ウタリ 6-3	1964
4	枝幸町	川尻	赤色泥質チャート	1	(7.6)	(4.4)	(2.1)	68.4	破片	赤色	III ~ IV	東銅路 I ~ IV・石刃鏃	ウタリ 6-3	1964
5	枝幸町	川尻	赤色泥質チャート	1	(7.8)	(5.1)	(2.0)	110.2	破片	赤色 擦切痕	III ~ IV	東銅路 I ~ IV・石刃鏃	ウタリ 6-3	1964
6	大空町	豊里石刃	砂岩	1	9.7	5.5	2.0	—	中型	擦切孔	III?	石刃鏃	女満別町	1960
7	赤井川村	日の出 10	蛇紋岩	1	(12.3)	(5.2)	2.4	253.7	破片	端部・基部欠損 擦切痕	III?	アルトリ?	道理文センター	1999
8	伊達市	牛舎川右岸	蛇紋岩	1	(13.1)	5.1	2.6	191.4	破片	端部・基部欠損 2 穿孔 擦切痕	II ~ III	鳴川 ~ アルトリ	道理文センター	1990
9	網走市	天都山	蛇紋岩	1	10.0	5.4	1.7	—	中型	天都山南側のクツチャロ 美麗な淡緑色 擦切溝あり	—	不明	ウタリ 3-1	1960
10	遠坂市	西島松 5	ロジン岩	1	(8.4)	(4.3)	(1.4)	68.2	破片	端部欠損 擦切孔	III	アルトリ	道理文センター (5)	2008
11	函館市	梁川町	記載なし	1	10.4	4.3	1.7	—	中型	擦切孔	II	住吉町	市立函館博物館	1955
12	新得町	屈足 17	ロジン岩	1	9.7	3.9	1.4	91.4	小型	完形	—	不明	道理文センター	2017
13	青森県東通村	下田(代納屋)	粘板岩	1	(7.2)	(6.2)	(3.0)	—	破片	基部のみ、擦切痕・2 穿孔 (一つは未孔)	II	吹切沢	青森県立郷土館	1976
14	苫小牧市	静川 22	蛇紋岩	1	9.5	4.2	2.0	108.8	破片	擦切痕	IV	中茶路・コッタロ	市教育委員会 苫東IX	2002
15	苫小牧市	静川 14B	蛇紋岩	1	7.7	6.1	2.1	—	破片	破損面研磨、再加工	IV	東銅路 III ~ IV	市教育委員会 苫東VI	2002
16	浦幌町	平和	流紋岩?	1	(10.0)	(4.2)	(2.2)	—	破片	擦切孔	III	下頭辺式	町教育委員会 第1集	1960
17	釧路市	テッセル	記載なし	1	7.0	4.6	1.4	—	小型	—	—	不明	鏃(やじり) 釧路工業高専郷土研究部	1969
18	函館市	中野 B	蛇紋岩	1	5.1	3.4	0.9	21.4	小型	穴の一部に擦痕あり(紐すれか)	II ~ III	住吉町・ムシリ I	道理文センター	1995
19	函館市	中野 B	蛇紋岩	1	4.9	3.8	0.9	25.7	小型	穴の一部に擦痕あり(紐すれか)	II ~ III	住吉町・ムシリ I	道理文センター	1995
20	斜里町	チツブト(マ)	記載なし	1	6.0	3.0	0.9	—	小型	日の出 チツブト(マ)	—	不明	河野広道ノート	1981
21	大空町	豊里石刃	緑色泥岩	1	5.3	3.5	1.3	—	小型	—	III?	石刃鏃	女満別町	1960
22	芦別市	滝里 4	蛇紋岩	1	4.6	4.0	0.8	24.5	小型	穿孔欠製品?	III	アルトリ	道理文センター	1996
23	釧路市	桜ヶ岡 2	ホルソフェルス	1	4.9	2.9	0.9	19.9	小型	2号住居床面出土	III ~ IV	東銅路 II	市教育委員会	1987
24	長万部町	オムルベツ 2	蛇紋岩	1	5.6	3.2	0.8	23.8	小型	石のみ	III ~ IV	アルトリ・東銅路 III・IV	道保連協会	1999
25	中富良野町	本幸 1	石英片岩	1	6.0	3.9	2.8	72.0	小型破片	擦切孔	—	町内出土。 本幸 1 遺跡ではない	町教育委員会	1988
26	浦幌町	平和	流紋岩	1	(3.4)	(2.8)	(1.1)	—	小型破片	未穿孔 擦切痕	III	下頭辺式	町教育委員会	1971
27	豊頃町	高木 1	滑石	1	(4.3)	(3.0)	(1.0)	—	小型破片	擦切痕	II	沼尻式	北海道開拓記念館	1989
28	浦幌町	平和	流紋岩	1	—	—	—	—	小型破片	実測図の縮尺不明瞭 擦切痕	III	下頭辺式	町教育委員会	1971
29	浦幌町	平和	流紋岩	1	6.8	2.4	0.9	—	小型	赤・黒の色調 擦切痕	III	下頭辺式	町教育委員会	1971
30	網走市	トビエウス川南岸	トシモウ四石岩	1	3.8	2.5	0.8	—	小型	紐すれ 黒色をチャイソウカ 擦切痕	II	沼尻式	町教育委員会	1978
31	函館市	中野 A	記載なし	1	3.7	2.5	0.4	6.8	小型	—	I ~ IV	中野 A・中茶路	市教育委員会	1977
32	苫小牧市	静川 8	蛇紋岩	1	7.0	3.0	0.9	31.3	小型	—	IV	コッタロ・中茶路?	市教育委員会 苫東 III	1990
33	網走市	喜多山 4	記載なし	1	5.2	2.2	1.0	—	小型	擦切痕	II	沼尻式・石刃鏃	市教育委員会 第1集	1992
34	浦幌町	平和	流紋岩?	1	6.0	1.8	0.6	—	小型	日高ヒスイ製か? 擦切痕	III	下頭辺式	町教育委員会 第1集	1960
35	浦幌町	平和	流紋岩?	1	4.5	1.4	0.3	—	小型	擦切痕	III	下頭辺式	町教育委員会 第1集	1960

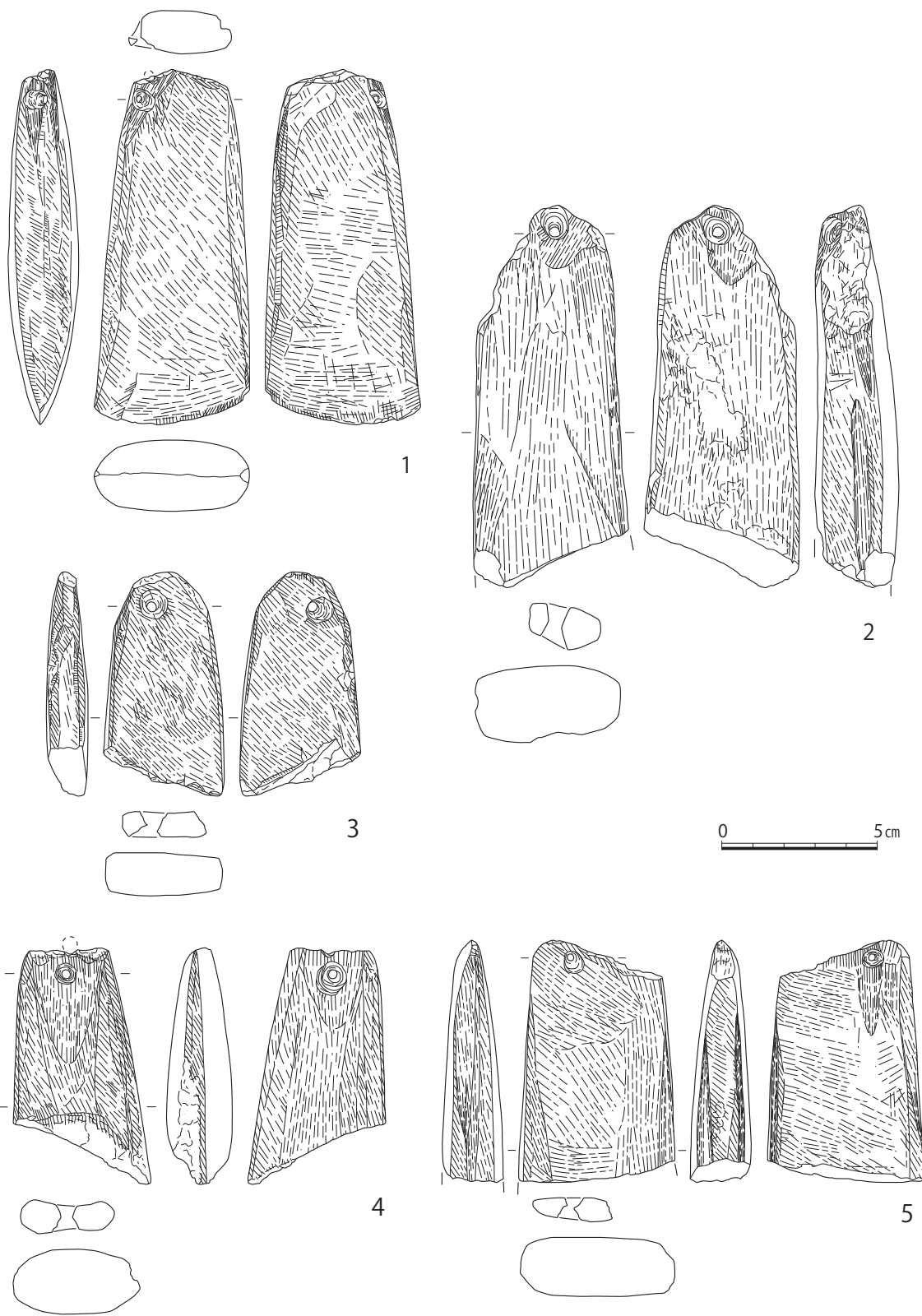


図1. 枝幸町の有孔石斧

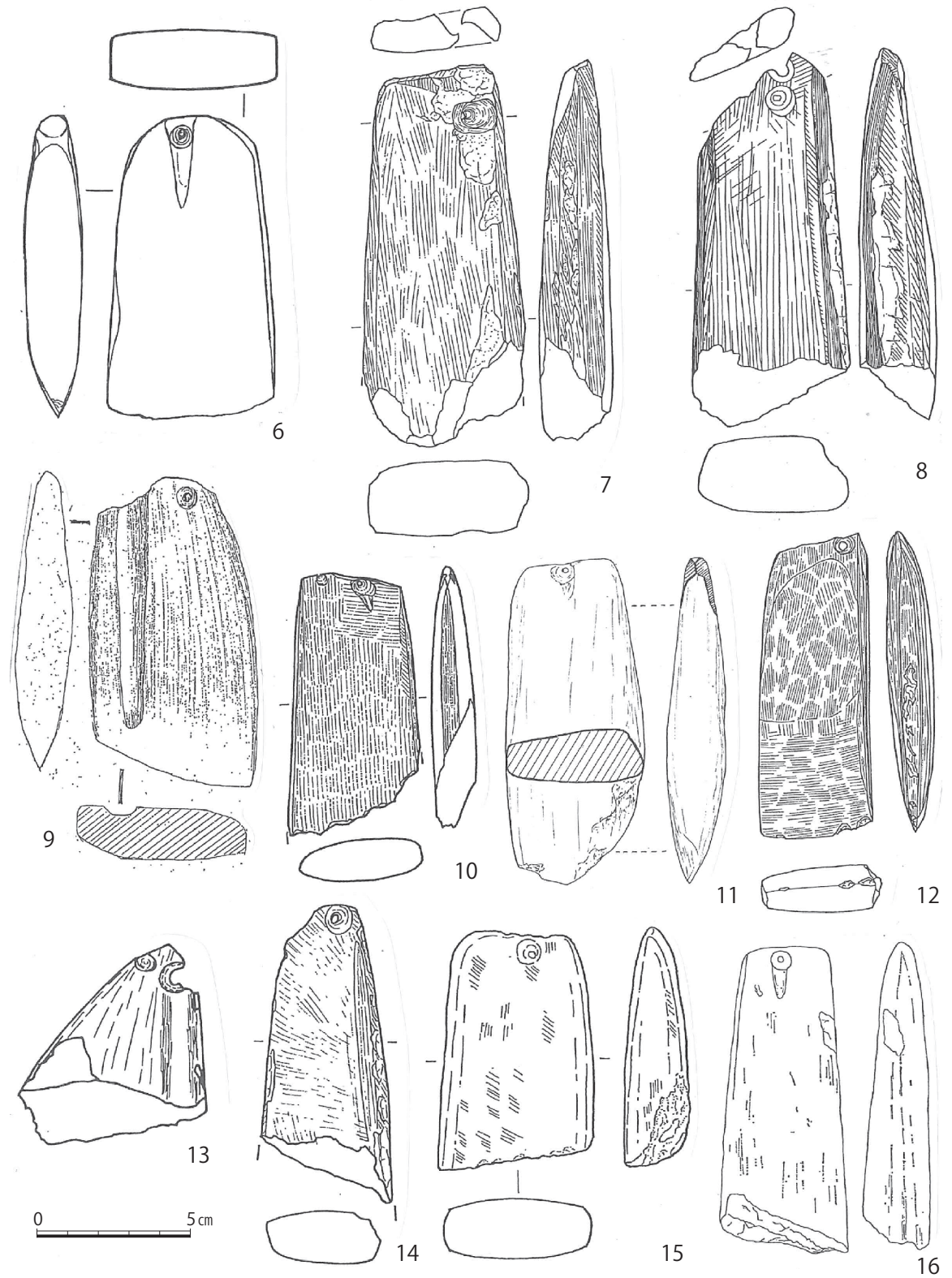


図 2. 各地の有孔石斧 (1)

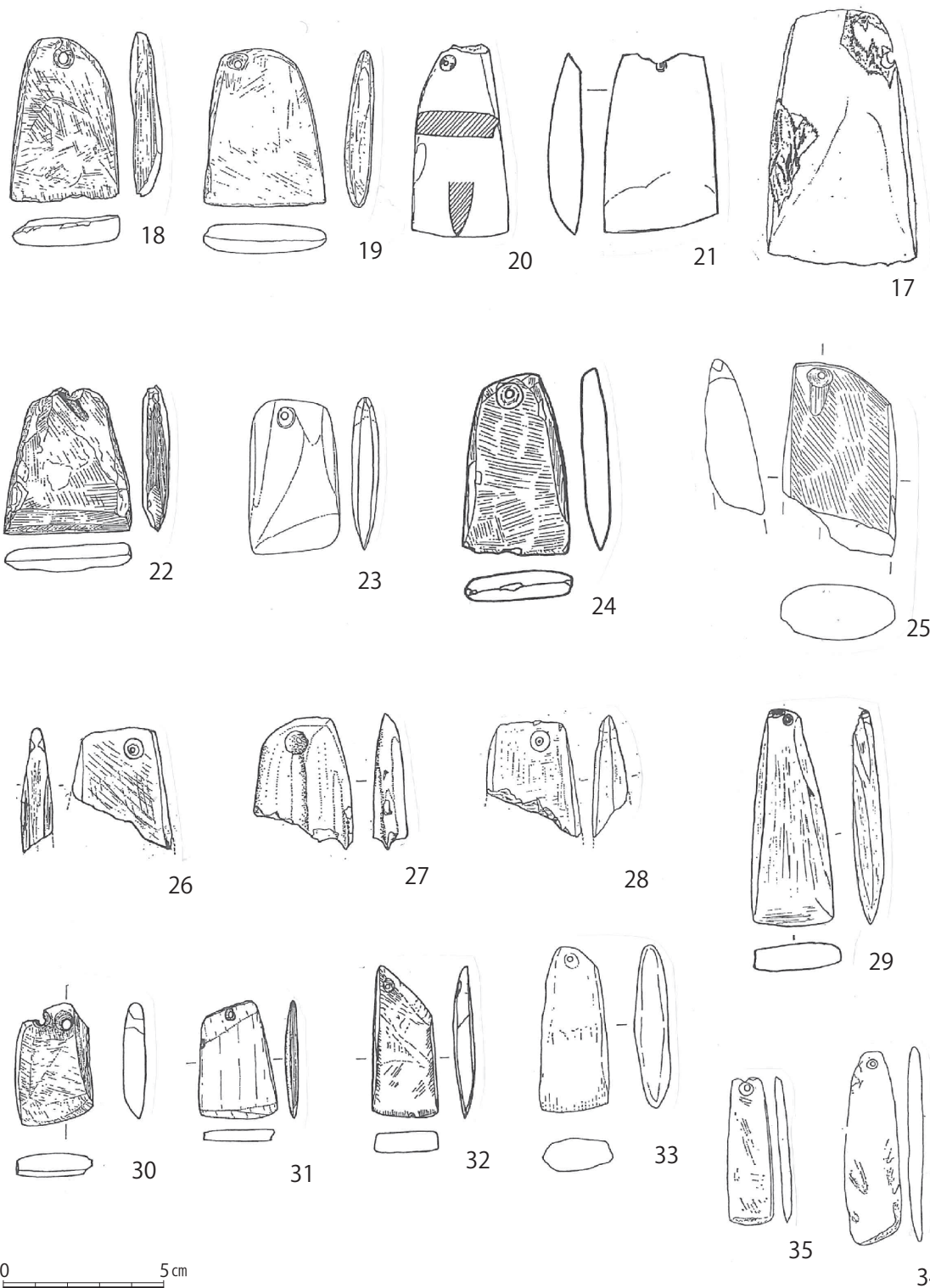


図 3. 各地の有孔石斧 (2)



写真 1. 歌登町出土の有孔石斧



写真 2. 岡島川尻遺跡の有孔石斧